

平成26年度 決算特集号



花桃の種を空へ飛ばす八代小学校の児童

平成26年度決算が9月議会で認定されました。

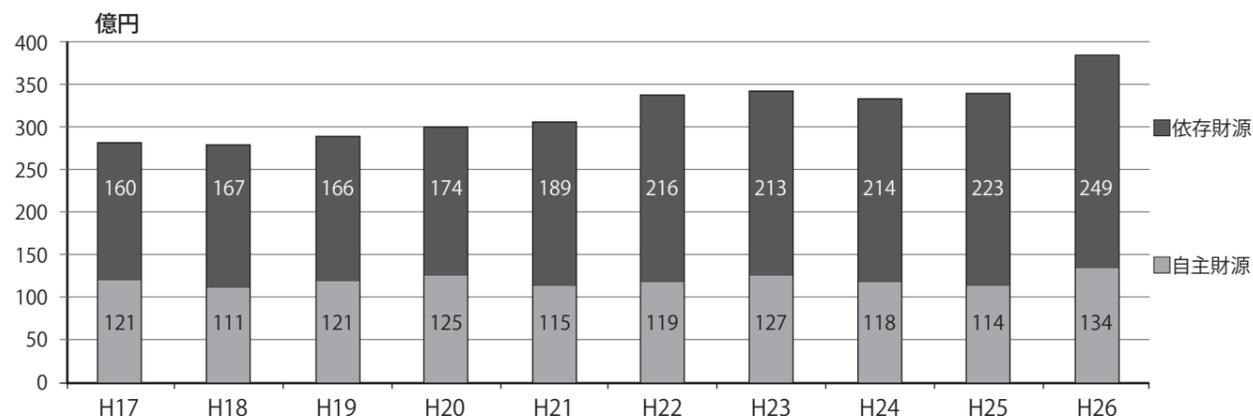
笛吹市の合併後10年の決算の変化を紹介します。

CONTENTS(内容)

決算の概要	2~5
市の基金(貯金)と市債(借金)	6
財政健全化判断比率など	7
平成26年度に実施された事業	8

一般会計 自主財源・依存財源の推移

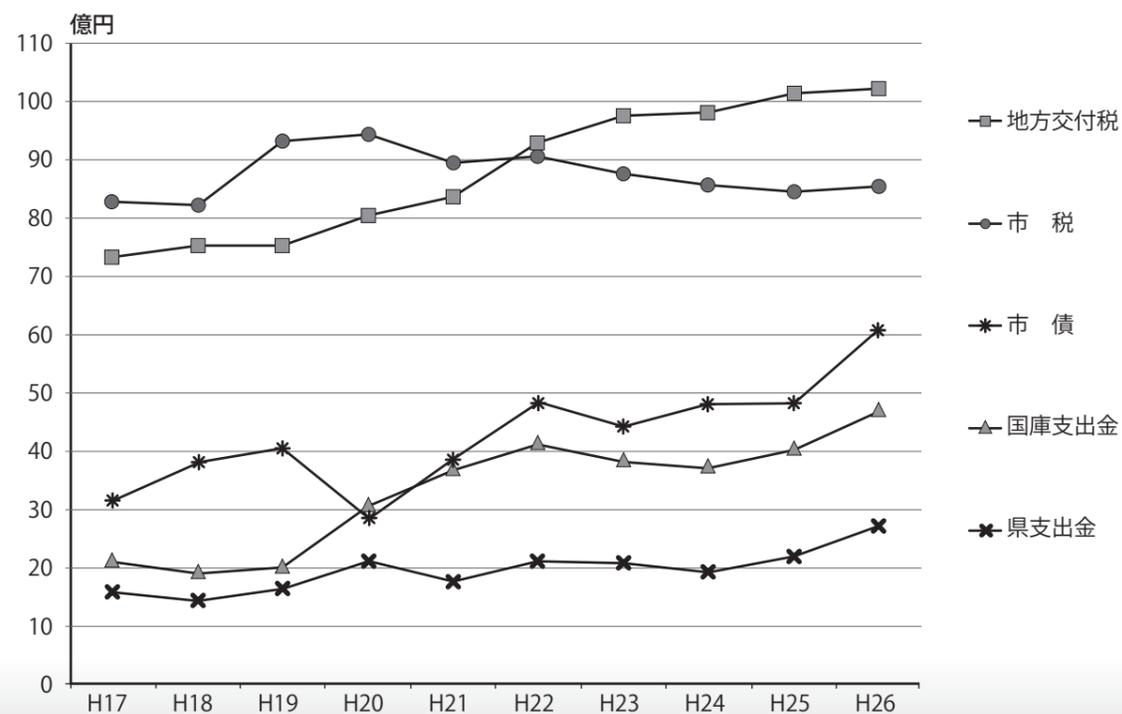
合併からの推移を見ると、自主財源は横ばいですが、地方交付税や市債などの依存財源は増加傾向にあることが、下のグラフから分かります。



一般会計 主な歳入科目の決算額推移

年々建設事業費が増えていることに伴い、市債や国庫支出金などの依存財源は増加傾向にあります。また、笛吹市では地方交付税に返済金の一部が算入される合併特例債など有利な市債を借り入れているため、地方交付税額も10年間で約30億円増加しました。

一方、市税については、4年ぶりに前年度を上回りましたが、平成20年度以降は減少傾向にあります。市民の負担における公平性と財源確保の観点から、滞納繰越分などの未収債権を中心に、さらなる回収整理の取り組みを進めていかなければなりません。

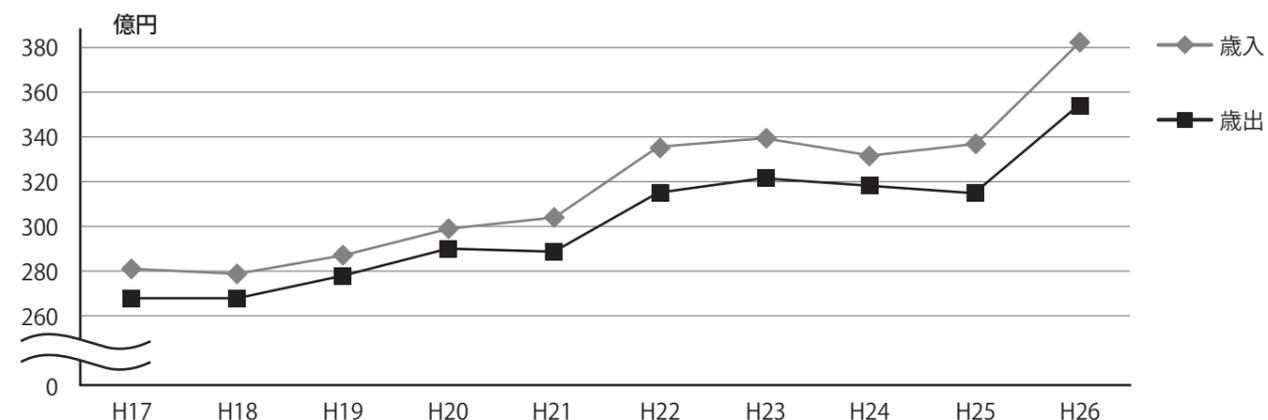


平成26年度 決算概要

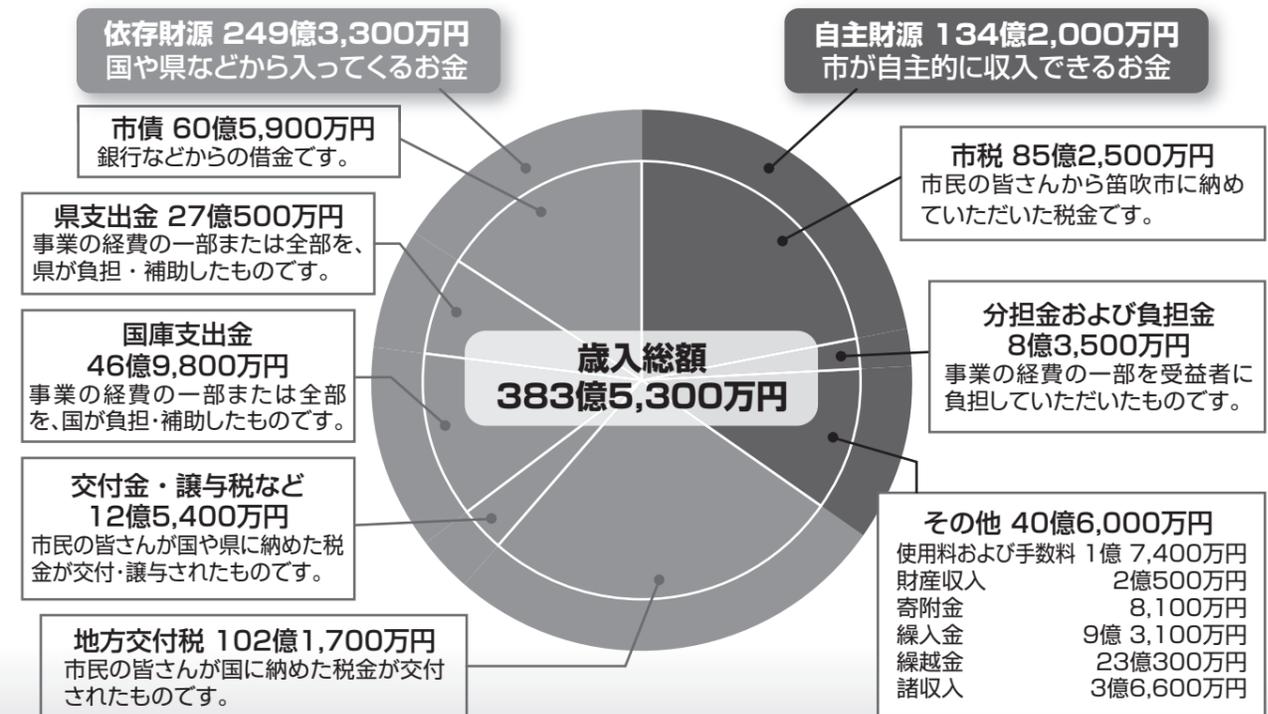
平成26年度決算が9月議会で審議され、認定されました。ここでは、市民の皆さんが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政が今どのような状況にあるのかをお知らせします。

一般会計 歳入・歳出の決算規模

平成26年度一般会計決算は、歳入総額が383億5,300万円、歳出総額が354億700万円でした。市の道路や公共施設などの建設に要した普通建設事業費や、建設に伴い借りたお金の返済金（公債費）、高齢者や子どもの支援のための扶助費が年々増加しており、10年間で約100億円増加しました。

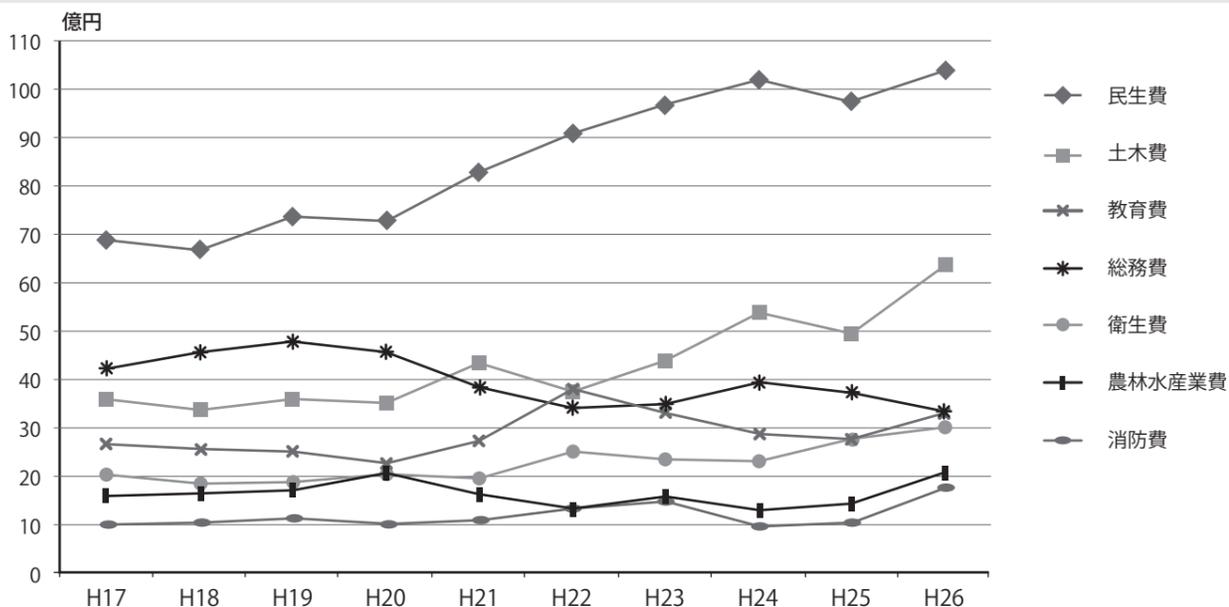


一般会計 歳入の内容



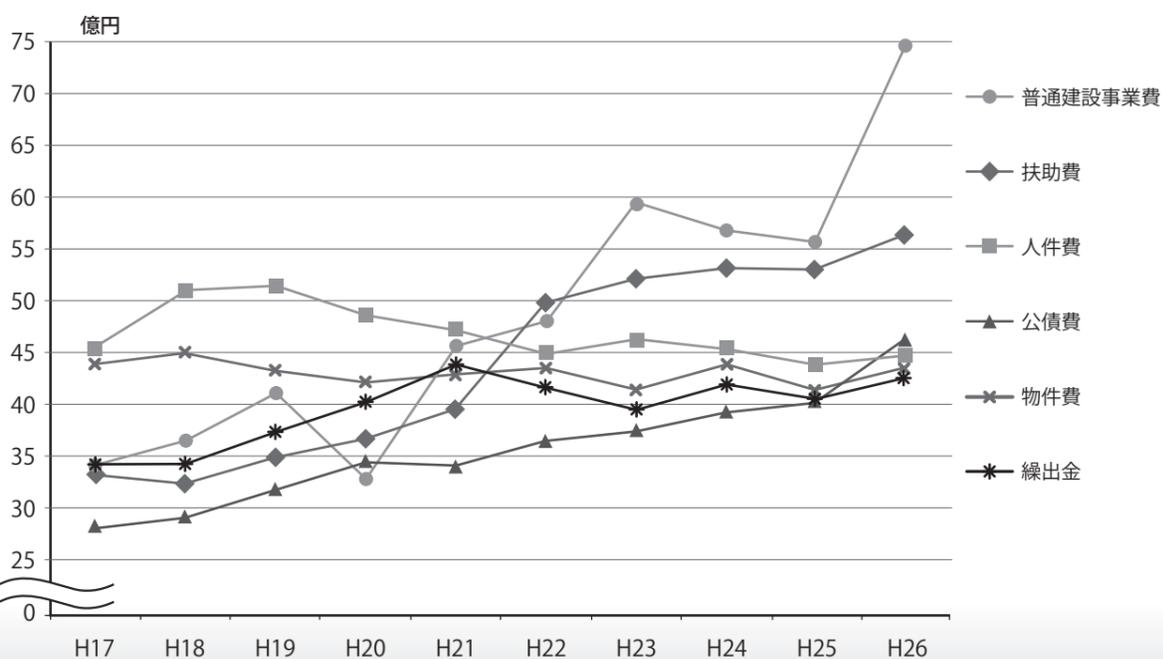
一般会計 目的別歳出額の推移

目的別歳出額は民生費と土木費が大きく増加しています。民生費の増加は保育施設などの建設および児童、障がい者の支援や生活保護費などの扶助費関連の増加が要因です。また、土木費は砂原橋の架け替えなど道路・橋の建設や公園の整備、石和温泉駅の周辺整備など大型事業を行ったことによるものです。

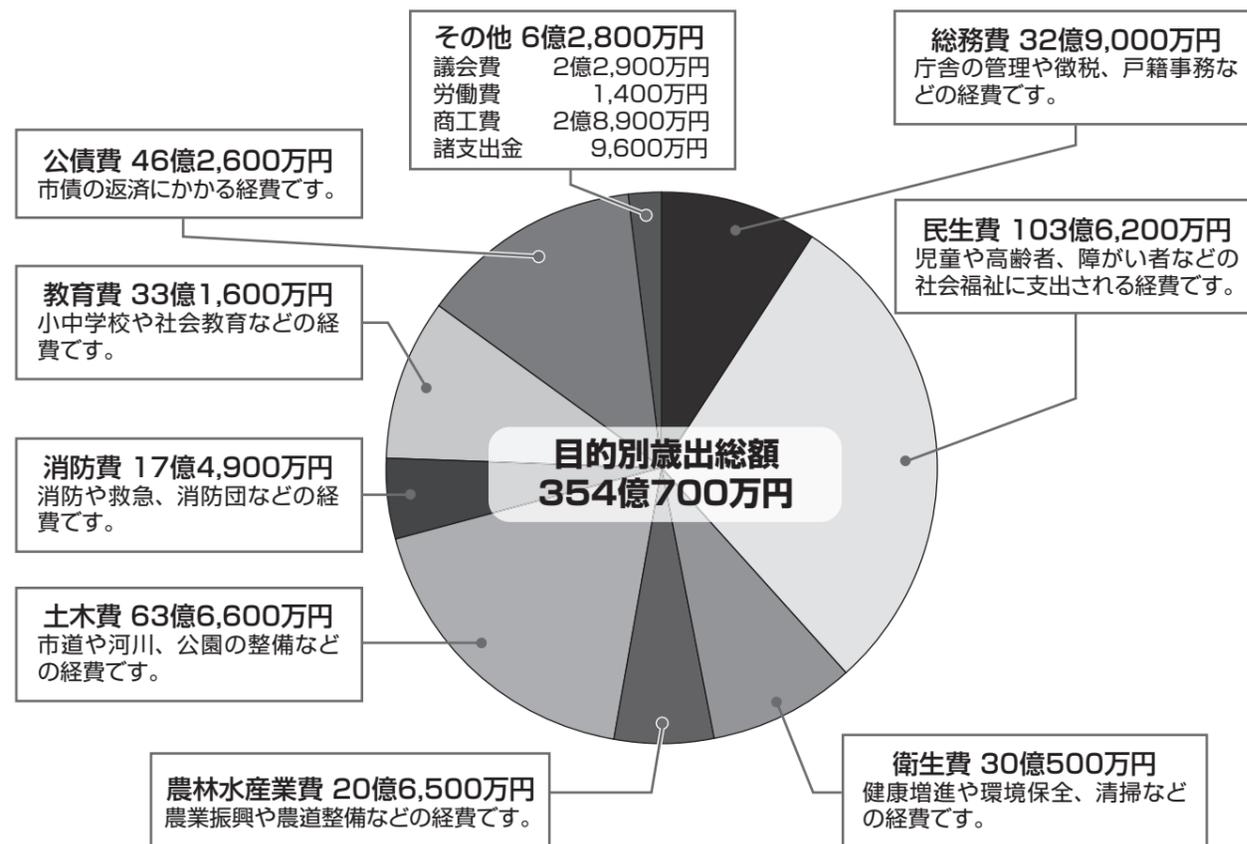


一般会計 性質別歳出額の推移

目的別歳出額で増加している土木費、民生費に関連する普通建設事業費や扶助費ならびに公債費は増加傾向にある一方、人件費および物件費は減少傾向にあります。



一般会計 歳出の内容



歳出の中で最も占める割合が大きかったものは、民生費の103億6,200万円で、歳出全体の約30%を占めています。民生費の経費である扶助費は、制度上で支出することが義務付けられていて削減が難しく、今後も少子高齢化などの影響により、増加する傾向にあると推測されます。

次いで土木費が歳出の中で2番目に大きい割合を占めており、前年度より14億4,500万円多く、道路橋梁の新設改良や、石和温泉駅周辺整備事業などの普通建設事業がピークを迎えたことが増加の要因と考えられます。

特別会計・企業会計の決算状況

会計区分	収入済額	支出済額	会計	区分	決算額
国民健康保険特別会計	91億 3,652万円	89億 5,714万円	水道事業会計	収益的 収入	18億 4,281万円
介護保険特別会計	58億 1,822万円	57億 8,266万円		収益的 支出	16億 8,092万円
介護サービス特別会計	1,838万円	1,749万円		資本的 収入	22億 2,146万円
後期高齢者医療特別会計	12億 6,253万円	12億 6,105万円		資本的 支出	26億 9,054万円
公共下水道特別会計	29億 9,909万円	28億 4,847万円	春日居地区温泉給湯事業会計	収益的 収入	7,464万円
農業集落排水特別会計	5,131万円	4,137万円		収益的 支出	7,033万円
簡易水道特別会計	2,263万円	1,814万円		資本的 収入	0万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	4,722万円	550万円	資本的 支出	163万円	
合計	193億 5,590万円	189億 3,182万円	資本的収入が支出に不足する額は補てん財源で措置しました。		

財政の健全度を判断する指標を公表します

平成26年度決算に基づく算定の結果、全ての指標が「健全」の基準内となり、健全な財政運営が維持されていると判断できます。

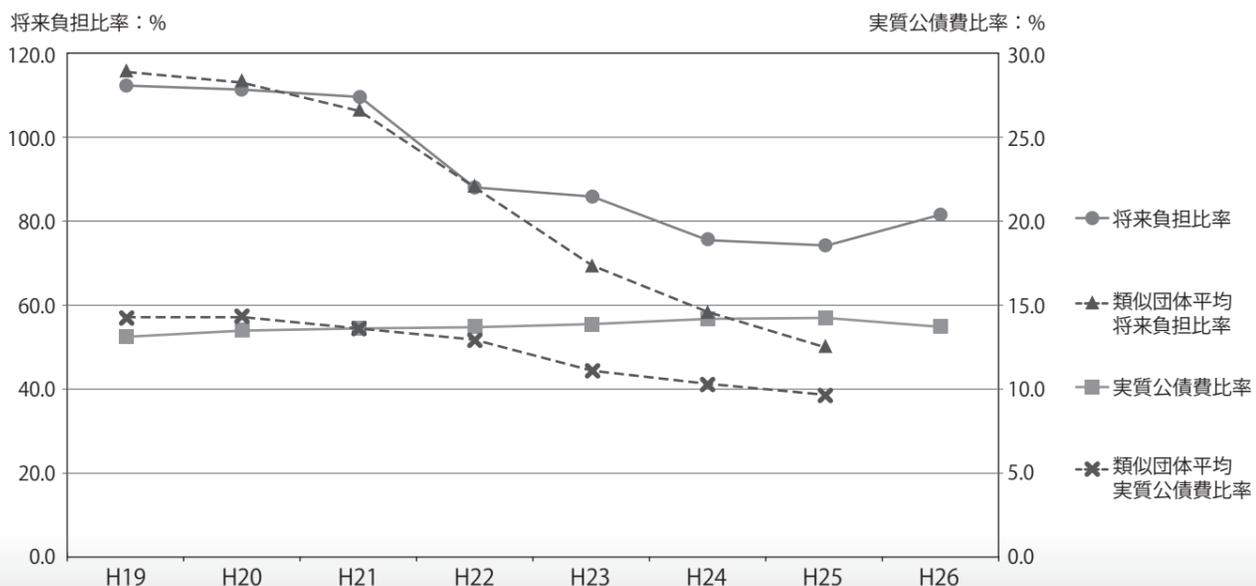
指標	比率の説明	早期健全化基準	算定結果(前年度)		
健全化判断比率	①実質赤字比率	一般会計の赤字額の程度を市の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。	12.47%	— (—)	一般会計は黒字となっていますので、指標化されません。
	②連結実質赤字比率	一般会計、特別会計および公営企業会計の赤字額や黒字額を合算して、市全体の赤字の程度を指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。	17.47%	— (—)	すべての会計において黒字となっていますので、指標化されません。
	③実質公債費比率	一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済金のうち、一般会計から支出されたと認められる額の合計額を市の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示す比率です。	25.0%	13.8% (14.2%)	前年度から0.4%減少し、早期健全化基準の「25.0%」を下回っていますので、健全といえます。
	④将来負担比率	市の借入金や将来負担すべき額から市の貯金などを差し引いた額を市の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示す比率です。	350.0%	81.5% (74.4%)	前年度から7.1%増加しましたが、早期健全化基準の「350.0%」を下回っていますので、健全といえます。
⑤資金不足比率	上水道、下水道など公営企業の資金不足を指標化し、経営の健康度を示す比率です。もし、ある公営企業会計で赤字が出たときには、赤字額をその公営企業の料金収入の規模と比較して、指標化します。	20.0%	— (—)	すべての公営企業会計とも赤字となっていないので、指標化されません。	

財政指標の推移

財政健全化が公表を義務付けられた平成19年度以降の数値をグラフで表すと、将来負担比率は減少傾向、実質公債費比率は若干の増加傾向にあることが分かります。

類似団体の平均値と比較すると、平成22年度からいずれの数値も上回っていますが、笛吹市は返済金の一部または全部を国が支援してくれる合併特例債などの有利な市債を積極的に借り入れていることによるものです。

適切な事業の選択に努め、基金の積み立てや市債残高を縮減することが、将来負担比率や実質公債費比率の減少につながります。



※H26 類似団体平均将来負担比率と類似団体平均実質公債費比率は発表されていないため記載されていません。

一般会計 基金(貯金)残高の状況

基金の名称	平成25年度末	平成26年度末	増減額
財政調整基金	38億 560万円	29億 883万円	△8億9,677万円
減債基金	17億 8,654万円	17億 8,756万円	102万円
公共施設整備等基金	36億 4,152万円	36億 4,823万円	671万円
地域振興基金	48億 5,862万円	48億 7,934万円	2,072万円
その他特定目的基金	20億 4,882万円	21億 191万円	5,309万円
合計	161億 4,110万円	153億 2,587万円	△8億1,523万円

基金というのは、家計でいうと預貯金のことです。決算剰余金が生じた場合などには、基金に積み立てを行います。平成26年度につきましては、雪害被害に遭った施設の復旧に要する経費として財政調整基金から取り崩しを行いました。

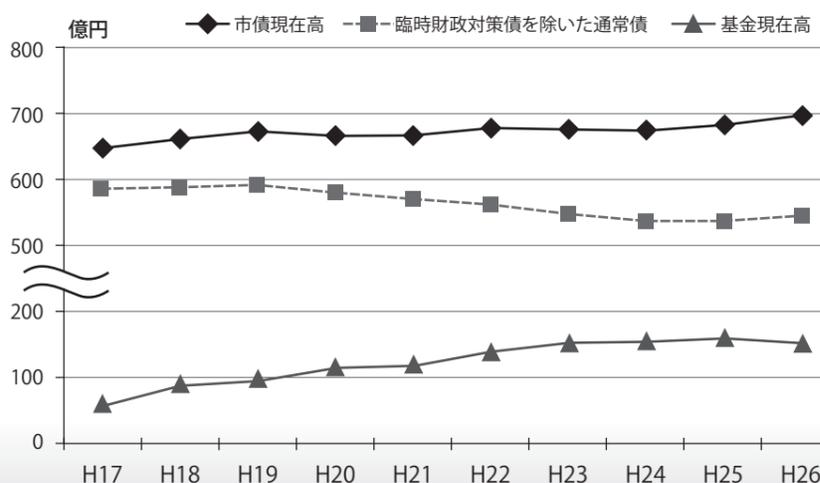
市債(借金)残高の状況

会計名	平成25年度末	平成26年度末	増減額
一般会計	403億 1,300万円	421億 6,758万円	18億 5,458万円
うち合併特例債	143億 2,605万円	165億 6,350万円	22億 3,745万円
うち臨時財政対策債	148億 7,933万円	154億 3,910万円	5億 5,977万円
公営企業会計	279億 543万円	274億 4,744万円	△4億 5,799万円
上水道・簡易水道	82億 8,039万円	88億 871万円	5億 2,832万円
下水道	196億 2,504万円	186億 3,873万円	△9億 8,631万円
市債残高合計	682億 1,843万円	696億 1,502万円	13億 9,659万円
臨時財政対策債を除く市債残高合計	533億 3,910万円	541億 7,592万円	8億 3,682万円

市債は、長く利用する施設などで、借入金を長期間にわたり償還することにより、将来その施設を利用する人にも公平に負担していただくという、世代間の負担の公平性を保つ役割を持っています。平成26年度の現在高は696億1,502万円で、2年連続で増加しました。

基金(貯金)と市債(借金)残高の推移

下のグラフから、基金と市債は増加傾向で推移しているのが分かります。



臨時財政対策債とは…?

国から地方公共団体へ分配する地方交付税が足りない場合に、不足分を地方公共団体で借金をしてまかなうための市債です。臨時財政対策債は、その元利償還金相当額が後年度の交付税に算入することとされています。

平成26年度実施事業

平成26年度にも多くの事業を実施しました。主な事業の内容について、一部を写真で紹介します。



八代町・境川町で行われたインターハイ（自転車競技）

8月5日から8月9日まで、市内でインターハイ自転車競技を開催しました。40℃を越える暑い日差しの中での競技でしたが、大会新記録が生まれるなど、ハイレベルな闘いが繰り広げられました。



新しくなった芦川小学校の体育館

緊急避難所に指定されている芦川小学校体育館の耐震化を行いました。今後は、擁壁とグラウンドの改修を進め、災害時の児童や市民の安全を確保し、また、教育環境の充実を図ります。



新設された高機能指令センター

市民が安心して生活ができるよう、安定した通信基盤を整備するため、消防救急アナログ無線をデジタル化に移行し、通信指令室についても、高機能指令センターへ移行しました。



盛大に開催された市民まつり

スコラーセンターにおいて笛吹市政施行10周年記念式典が開催され、来賓者など300人が出席しました。そのほかにも、笛吹市民まつりを開催し、市内のさまざまな商店や企業、市民団体などが集まり、活動紹介やフードコート、フリーマーケット、ステージ発表などが行われました。



記念式典に参加したバート・メルгентハイムの使節団

笛吹市の国際友好都市であるバート・メルгентハイム市から18人の友好使節団が笛吹市を訪れ、市政10周年記念式典のほか、八代ふるさと公園での植樹や、ワイナリーの見学などを行い市民レベルでの交流を深めました。



リニューアルされた石和温泉駅

交通拠点の形成と観光、交流の玄関口として石和温泉駅の整備を行い、駅舎の老朽化、バリアフリー化への対策を行いました。今後は、駅北口広場および周辺道路整備、また駅の南北を結ぶ自由通路整備を行うことにより、駅北側地域の活性化を図ります。

■問合せ先 財政課 ☎ 055(262)4111

●発行／2015年11月1日 山梨県笛吹市役所

●編集／経営企画課・広聴広報担当

●所在地／〒406-8510 笛吹市石和町市部777番地 ☎ 055(262)4111

●URL <http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp>